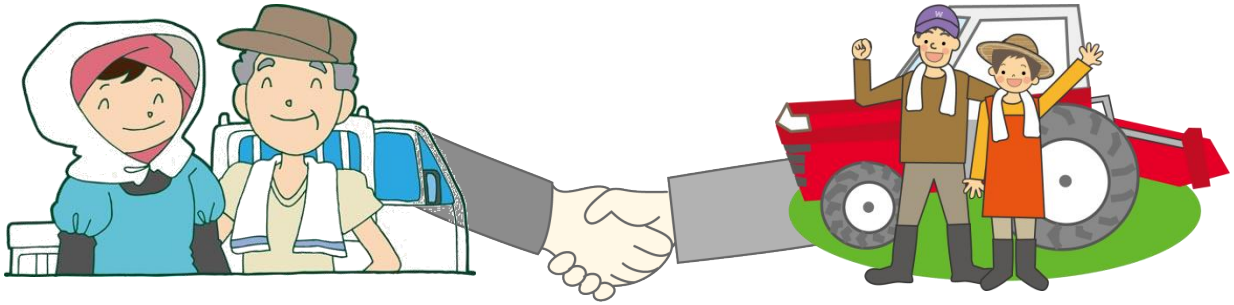
〇〇市御中

仮称「〇〇市農業委託促進事業」ご提案



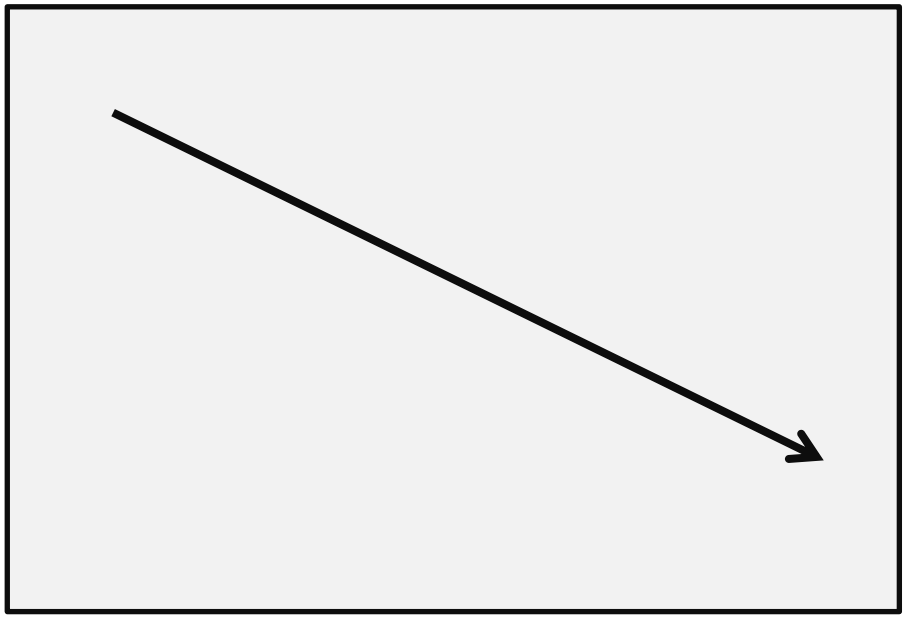
○○町における活性化の課題

高齢化・過疎化

○○町には大規模企業がないため、若者の安定的な雇用が図られず、長期的に過疎化が進捗。
同時に、住民の高齢化が進み、ひいては町内の活力低下が懸念されていた。

また、少子化も顕著で、○○町内に3校あった小学校のうち、○小学校が廃校。○小学校も複式学級と、教育環境も悪化している。

○○町の人口推移

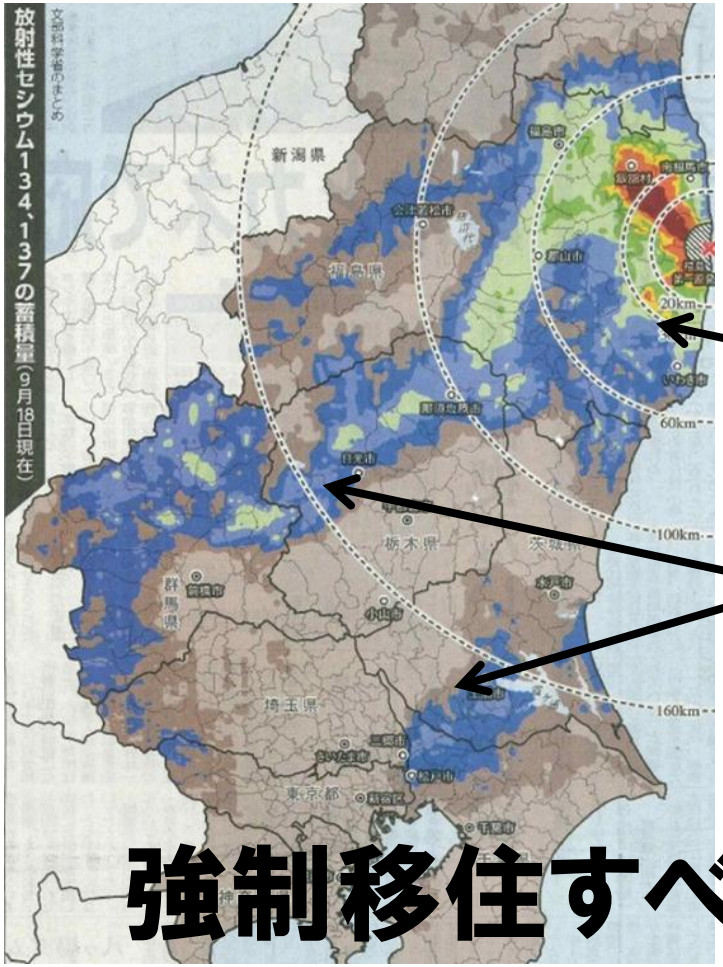


人口の推移 30年前と比べて △40%

311東北大地震と原発事故による移住者の増加

首都圏も定住できない放射能線量

避難・移住意識の高まり



チェルノブイリとの比較

凡例

セシウム137/134
合計の汚染レベル
(チェルノブイリとの比較)

- 300万Bq/m2以上
- 100万～300万Bq/m2
- 60万～100万Bq/m2

(強制移住区域 相当)

- 30万～60万Bq/m2

(希望移住区域・保証あり 相当)

- 10万～30万Bq/m2

(希望移住区域・保証あり 相当
一部 放射線管理区域 相当)

- 6万～10万Bq/m2
- 3万～6万Bq/m2

(放射線管理区域 相当)

- 1万～3万Bq/m2
- 1万Bq/m2以下

強制移住すべき線量

放射能に対して
意識の高い人達が
西日本に移住を開始。

その受け皿になるた
めに『〇〇支援隊』が
活躍。

○○町における移住者の動向

移住の受皿(あっせん)

○○町の活性化をめざして有志で活動する支援隊が移住者の受入れを企画立案して実行した。

○○支援隊の結成

●隊長/[illegible](○○)
●隊員数/ 00名
●結成/ 平成0年

活動実績

●古民家の有効利用
(有志の奉仕で改修)
●不動産のあっせん
●就労のあっせん

2012年8月現在の成果

○○に移住者8組

地区	姓	家族
○○	○○○○	子ども2人
	○○○○	子ども2人
	○○○○	子ども2人
○○	000(0)	子ども2人
	000(0)	子ども2人
○○	000(0)	子ども2人
	000(0)	子ども2人
	000(0)	子ども2人

移住者の抱える課題

移住の負担

移住者には何重もの負担がのしかかっている。

- ●首都圏住居の売却問題
- ●引っ越し費用の負担
- ●夫婦離婚の問題
- ●家族不和の問題
- ●子どもの転校問題
- ●夫の転職問題

移住後の課題

中でももっとも大きな課題は、○○移住後の雇用問題である。

- ●安定的受け皿企業の不足
- ●○○市内までの通勤負担(時間・交通費・自動車投資)
- ●前職の経験が活かせないミスマッチ
- ●将来的には子どもの教育機関の不足

○○町の構造的な課題と、
移住者の家庭的な課題を相互解消するご提案！

○○町における米作農家の現状と対策

従来の米作農業

一家完結型
●土地/自己所有(相続)
●耕作/ 家内全員
●販売/ 農協出荷

一家完結型農業の課題
●高齢化/身体負担が増大
●労働力減少/ 跡取りが都会へ定住(帰農せず)
●販売/ 政府買い取り価格低下

これからの米作農業

移住者との共同米作農業
●土地/所有権はそのまま
●耕作/ 耕作を移住者に請け負わせる
●販売/ 首都圏一括出荷

共同米作農業の効果
●土地所有者の高齢化に対応(不測の事態にも耕作が維持継続できる)
●労働力減少に対して、フォローしてもらえる
●販売を首都圏の放射能フリー食材の拠点に卸す(四国の米は高付加価値化している)

仮称「○○市農業委託促進事業」

事業の趣旨

○○市の水田所有者が工作の実務を移住者に請け負い委託する事業。
○○市は、その委託主・委託者のマッチングを図るとともに、運営費に関する○○0万円/年額を予算化する。
当面○○町をモデル地に指定して、実施していく。

これからの米作農業

農家のなかには、
年で引退したい
という人がいる

農家

耕作
委託希望

○○市(マッチング)

耕作
受託希望

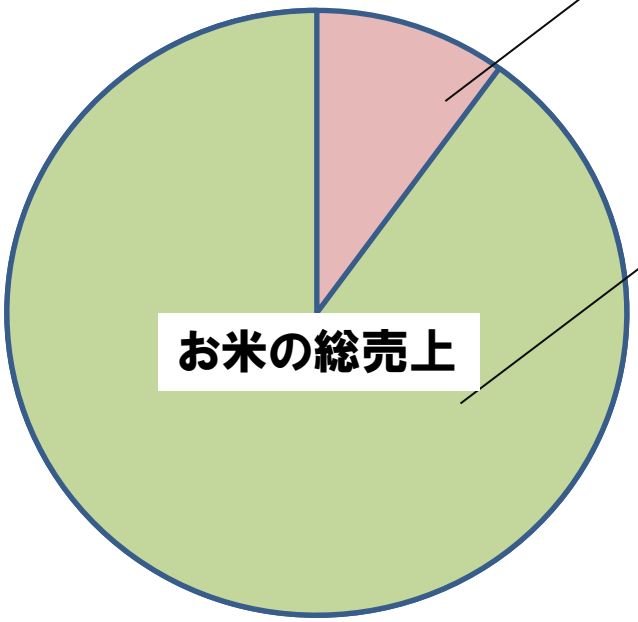
移住者のなかには、
農業に特化したいが
土地も資本力もない
という人がいる

移住者

委託費用（案）

費用の目論見(案)

お米の総売上のうち土地貸与に相当する額を貸主が天引きし、残りを受託者（移住者）が受け取る。



10%(土地貸与額相当)
貸主が受け取る

90%(耕作実労働相当)
借り主が受け取る

種子代・肥料代・農薬代

機器レンタル代・燃料代

配送費